

活動報告書

報告者氏名: 伊藤陽子 所属: 仙台市立高砂中学校 記録日: 2020 年 2 月 21 日

キーワード: 学習レディネスの形成、学習意欲の向上、学びの保障、メタ認知、行動のコントロール

【対象児の情報】

○学年

中学校 2 年生

○障害名

ASD 傾向

○障害と困難の内容

- ①注意が散漫、集中力が持続せず、学習が積み上がっていない。
- ②字を書くことに強い抵抗感がある。書いた字は字形が整わず何と書いてあるのか分からない。
- ③力のコントロールが難しい。筆圧が強く、書字は疲れてしまう、消しゴムで消すと用紙を破いてしまう、彫刻刀では勢い余って指を切ってしまうなど、怪我につながるが多い。廊下をダッシュして移動したり、自転車では狭いところでスピードを出しすぎるなどの理由でしょっちゅう転んでいる。ボディイメージも弱い。
- ④イライラすると怒りが爆発し、自傷行為・他者とのトラブルになる。
- ⑤先を見通した行動が苦手であり、深く考えず行動するため、わざとではないが、ものを壊したり、他者とのトラブルになってしまう。メタ認知が弱く、それが自分の言動が原因とは認められず同じことを繰り返してしまう。時計を見て、時間に間に合うように行動することができていない。

【活動目的】

・当初のねらい

- ①効果的な学習方法を身に付けることで学びの空白を埋め、学習に向かうレディネスを整える。
- ②「書く」負担を軽減すること、分からないことを調べる手立てを持つことで、学習意欲の向上を図る。
- ③アプリや Pepper、Echo spot などを活用して生活面での課題の改善を試みる。

○実施期間

平成 31 年 5 月から令和 2 年 2 月

○実施者

伊藤陽子

○実施者と対象児の関係

特別支援教育コーディネーター

通級指導教室担当

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

〈学習面〉

- ・対象対象生徒は小学校時から授業に集中できず、学習習慣が未定着である。体を動かすことや工作は得意で実技を伴うものには意欲的に取り組める。
- ・音読は得意で積極的に取り組む。そろばんを習っていたこともあり、計算には自信を持っている。
- ・書字を伴う学習には強い抵抗感を示し、家庭学習の習慣もないことから成績は低迷している。
- ・アルファベットを完全には習得できていないため、dog や cat のような日常でよく見かける英単語以外は読み書きともにできない。英文法は Be 動詞の基本文レベルである。ただし、ALT が入った会話や英語ゲームの授業には楽しみながら意欲的に参加している。
- ・話し合いによる学習活動も他者の意見を聞き、自分の意見もしっかり言える。実技が伴う学習は好きだが、感覚過敏があるため、理科の実験には参加できないことがある。生徒の学習の様子を表①に示す

表①

音読	書字	計算	英語読み	英語書き	英語の文法
◎ 多くの先生から褒められる	× 書くことを嫌がる。判読不能の字を書くこともある	○ 計算には自信あり	× ほとんど読めない	× かけないアルファベット有	× Be動詞の使い方から…
聞く	話す	体育	理科の実験	実技教科	話し合い活動
×	○	△ やる気満々 けがが多い	× 光・音・匂いの過敏	○	○

〈生活面〉

- ・明るくユーモアがあり、よく気が利く。学級のお手伝いを進んでやってくれる。
- ・悪気はないのだが、周囲の状況を考えない言動や思い込み・勘違いからのトラブルになってしまうことがある。
- ・自分の言動を客観的に理解することが苦手で、他者に言われたことを大きくとらえ被害者意識を持ってしまう。
- ・予定や時間の管理、持ち物の管理も苦手。時間を逆算して準備や出発ができず、ギリギリの時間になってからパニックになる時がある。
- ・力のコントロールができないせいでよく怪我をする。
- ・家庭では動画を見て過ごすことが多く、同級生や教員とその内容について楽しく会話できている。



普段は笑顔いっぱいの元気な生徒

○活動の具体的内容

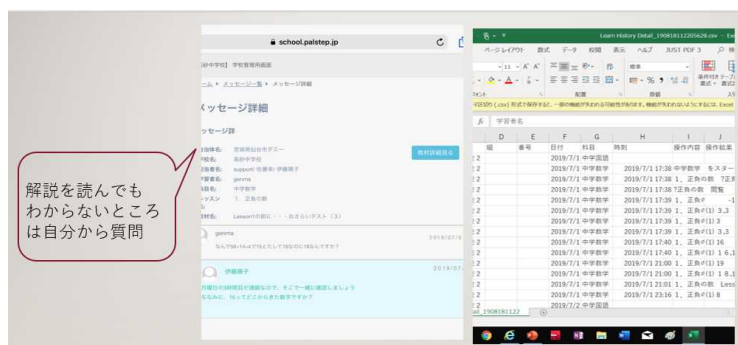
〈対象生徒の実践〉

ねらい①についての取り組み

- ・palstep による数学の学習未定着部分の解消と家庭学習の習慣化をめざした。

本人の希望で、定期考査で点数が取れるようになりたいから小学校の学び直しではなく国語・数学ともに中学校の課題からスタートすることにした。palstep に取り組むことで計算手順の確認と定着を狙った。

はじめは、意欲的に取り組み、分からないときには、自分からメッセージで質問をしてくるほどだった。しかし、不正解が続いたり、思うように成績が伸びなかったりが重なり、次第に取り組み回数は減っていった。担当者から声がけされると「はい。やります」と返事をするものの、継続的な学びにつなげることは難しかった。実践者の声がけやサポート不足が定着につながらなかった原因と思われる。



・英語の基礎からの積み上げ、予習をして授業に参加することを目指した。

英語については、「まるごとわかる中1英語」を毎日の課題として、担任（英語担当）に提出した。分からないときは、アプリを使って、問題集の解説動画を視聴しながら学習を進めた。学習ノートは毎日提出し、担任の先生から褒められた。褒められることで「明日も提出しよう。」という意欲につながり、家庭学習ノートの提出率は上がった。

しかし、知識の定着、学力の向上には至らなかった。ひとつの原因は、書くことの負担軽減をしないまま、答えを写すだけの作業になってしまったことがあげられる。一方で、Google 翻訳を使った単語調べは、テキスト入力できることから、嫌がらずに行い、英単語の予習は欠かさず行って授業に参加できるようになった。



・動画視聴による学習



理科や社会はNHK for Schoolの動画視聴により、学習内容の知識の定着を行った。動画視聴が好きな対象生徒は歴史に関することや理科の学習に関する番組を視聴するとそのことを担当者に報告した。雑学的な知識を得て、授業中にその知識をみんなの前で発言することもあった。授業参加への意欲付けにつながった。

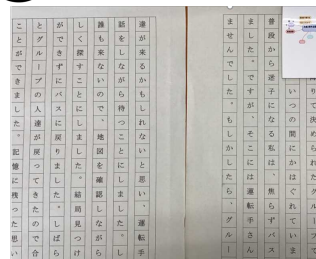
ねらい②についての取り組み

音声入力やテキスト入力を使って作文で仕上げる。

感想文など作文を書くことが苦手で、期限が過ぎても提出することができない。そこでマインドマップを使って、事実や気持ちを単語やキーワードの形でマインドマップアプリ(SimpleMind+)に入力させた。記入はテキスト入力や音声入力を用いた。できあがったマインドマップの中から、書きたいことに優先順位をつけさせた。つぎに、原稿用紙に縦書きで入力できるアプリ(縦式)を用いて、マインドマップで書き出した単語を文章にして入力していった。「書く」ことの負担軽減に加え、漢字を候補から選ぶことで、学年相応の漢字交じりの作文を仕上げることができた。



縦式



ねらい③についての取り組み

・マインドマップ^oを活用したトラブル時の状況の視覚化

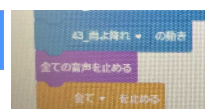
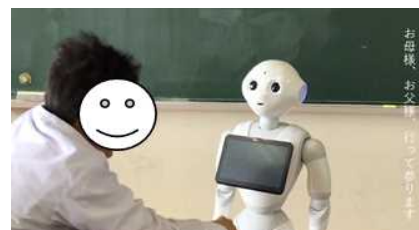
トラブルが起きたときの状況をマインドマップ®(SimpleMind+)にまとめながら



振り返りを行った。客観的かつ視覚的にトラブルが起こった時の状況を本人に提示することで、事実の確認と情報の整理ができた。なぜそのトラブルに発展したのか、どうすれば良かったのかを冷静に考える時間を持つことができ、口頭で注意されたときとは違い、「どのタイミングで」「どうすれば良かったのか」に気付き、気をつけようという意識を持てるようになった。

・Pepperを通して自己の言動を考えさせる

自己の言動を客観視させるために、対象対象生徒がよく使う言葉を話すようプログラミングした Pepper を見せ、友だちに対する言葉遣いを意識させた。やさしい Pepper になるよう言葉遣いを修正しようと提案したところ、ユーモアいっぱい、他者を笑わせたい気持ちを持っている生徒は、必要以上に丁寧な言葉使いに変更し、担当者を笑わせようと言葉遣いだけでなく、ポーズも熱心に考え、プログラミングしていった。肝心の自己の振り返りについては「気をつけまーす」と返事はするものの、どこまで理解できたかは、その後の生徒の変化を観察していくことでしか判断できなかったが、丁寧な言葉遣いをしようと気をつける様子が日常生活の中で随所で見られるようになった。



・EchoSpot に予定を入れ、時間や持ち物など見通しを持って準備・行動

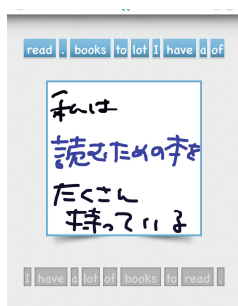
自宅に設置した Echo Spot に予定を入れ、時間や持ち物など見通しを持って準備・行動することを意識付けさせた。学校の Echo Spot では調べ物にも活用していた。校外の行事の時は、待ち合わせ時間に間に合わず、保護者送迎で会場に行っていたが、7月の合唱コンクールの際、駅での待ち合わせの時間に遅れずに集合し、同級生らと仲良く電車で行動できた。これは、本生徒にとって、大きな自信と、喜びにつながった。また、睡眠が安定せずイライラすることが多かったが、寝る前に Echo Spot で音楽を聴くことでリラックスして入眠できるようになったと発言しており、そのイライラの減少も、行動面での落ち着きにつながっているのではないかと考えている。



諦めかけたねらい①・②をもう一度

・同級生との放課後勉強会でやる気を取り戻す

思うように成績が上がらず、夏休みを境に、勉強から逃げようとする様子が見られた。担当者(伊藤)の声かけにもなかなか応じない状況だったが、定期考査が近づき、同級生との放課後勉強会を提案したところ、素直に応じた。学習ワークの答えをアプリを使った並べ替えで解答した。同級生からの励ましと、iPad を使って問題をやり遂げることができたことで、不安に思っていた「高校進学」に再び意欲を待ち始めた。自分から「先生、もう一回、palstep をつないでください。今度はちゃんとやります。」ともう一度頑張りたいと言いにきた。palstep 以外のアプリも使い勉強するようになってきた。

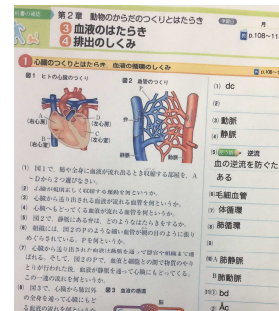


年末・年始 実はひとりで頑張っていました

M13	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
7	genma	高校 中学も中学校 2				2019/12/30 中学国語	2019/12/30 22:58	0:00:56		
8	genma	高校 中学も中学校 2				2019/12/31 中学国語	2020/1/1 23:02	0:00:15		
9	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/1 中学国語	2020/1/1 23:02	0:00:15		
10	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/2 中学国語	2020/1/2 10:11	0:00:08		
11	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/3 中学国語	2020/1/3 20:24	0:00:24		
12	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/4 中学国語	2020/1/4 0:00	0:00:07		
13	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/5 中学国語	2020/1/5 0:00	0:00:00		
14	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/6 中学国語	2020/1/6 0:00	0:00:00		
15	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/7 中学国語	2020/1/7 0:00	0:00:00		
16	genma	高校 中学も中学校 2				2020/1/8 中学国語	2020/1/8 22:02	0:00:06		

・テキスト入力で学習ワークに取り組む

「書く」と「疲れる」「せっかく書いても、合ってるのに×をつけられる」という本人の訴えをうけ、学習ワークをデジタルノート(GoodNote5)に取り込み、テキスト入力
で解答する方法を試みた。まだ、練習段階で慣れていないため、入力に時間がかかってしま
うが、きれいに仕上がったワークを印刷し、担任・教科担任に見てもらった。複数の先生に褒
められることで、意欲を持ち、継続してくれることを願って現在頑張っている。テキスト入
力は、物理キーボードを使い、ローマ字入力で行っている。Pepper のプログラミングの経験
から、物理キーボードのローマ字入力は抵抗なく行えている。



○対象生徒の事後の変化

同級生との勉強会をきっかけに、高校進学を意識し再び学習に取り組むようになった。また、自分は書くことが苦痛であ
る、テキスト入力や音声入力だと書くときより疲れないで勉強できると自覚し始めている。生活面でのトラブルは昨年度
に比べ減ってきている。それに伴って、通級指導教室に来る回数も減っている。自傷行為は今年度は見られない。校内で
同級生と談笑しながら歩く様子がたびたび見られるようになった。運動会を成功させたい、クラスの優勝に貢献したい
と、実行委員やリーダーに立候補し、頑張る姿が見られるようになった。また、進学したい高校や将来の夢について具
体的に話すようになった。

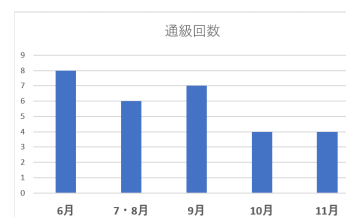
【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象生徒は昨年度より校内での笑顔が多く見られるようになった。将来の夢や高校進学に向き合えるようになり、ワーク
類や提出物を期限までに提出しようと頑張る姿が見られ始めた。行事では、クラスの勝利のためにと、一生懸命に頑張
る姿が見られ、同級生との関係も良くなってきている。自身の「改善しなければならぬ点」にも少しずつ向き合えるよ
うになったと感じている。

・エビデンス(具体的数値など)

対象対象生徒の月別通級回数を表②示す。今年度は教室から飛び出したり、教室に入
れないと訴えることがなく、定期の通級指導の時間のみの利用であった。教室での授業
や行事を優先するようになってきた。年末・年始休業中、誰に促されることなく、
palstep に取り組んでおり、「頑張りたい」「できるようになりたい」という気持ちが出て
きたことがうかがえる。



表②

月	3月	4月	5月	6月	7/8月	9月	10月	11月	12月
通級回数	10	7	6	8	6	7	4	4	3

・その他エピソード

「先生、ばく、今日、英語の予習やってきて、ちょっと自信があるんです。だから、今日は通級じゃなくて、英語の授業に出
たいんですけど、いいですか。」と職員室に断りに来た。インターネット検索や Google 翻訳を使って予習をしたので、英
単語の読み方、本文の意味など手を挙げて発言したいのだと言った。授業中、対象生徒は笑顔で授業に参加し、手を挙
げて発言もしていたと指導補助員から報告を受けた。

書字に関して、来年度は学習ワークのテキスト入力による提出を担任と検討している。受験については書字の必要のな
い受験(マークシート・自己推薦による面接受験など)を視野に入れ検討している。